明治四十一年二月十五日發行
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

明治の女子
第五巻貳號

如月號

目次

論説
○事業と力……エー、シー、マクドナルド
○人品と宗教……野村佐一郎
○昔の思出と樂の思出○誠の力……川副櫻喬

聖書研究
○イエスの祈禱（下）……柏井園

雜纂
○水の姫君……辻村靖子
○行く道……秋郎
○毛織物洗濯法……宮川すみ子
○先生……安田尚義
○さまよへる聖者……櫻喬生

女子青年會記事
横濱共立女學校青年會、鳥羽氏よりの書翰、大阪ウヰルミナ女學校青年會報告通信等、

是故に我等召されてキリストの使者となれり。我等キリストに代りて汝等が神に和かんことを附言に布ふ。　哥林多後書五、二十

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子

「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。
「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢一部郵税共金五錢とす。
日本基督教女子青年會は青年女子の衛生、社交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。
日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　エム、エ、ホイットマン
副委員長　岡見京子
記録書記　エ、ジー、ルイス
會計　フィシャー
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子
萬國學生基督教同盟會委員　宮川すみ子

東京在住委員
津田梅子　渡部瀧子
エ、ピー、ウエスト　井上友子
平野濱子　鈴木歌子
中島小春　井深花子

地方在住委員
大坂　ケー、ツリスツラム　京都　松田道子
京都　シ、エス、フエルプス　仙臺　エル、ザフルー
名古屋　イ、エム、ソーパル　廣島　エス、ジー、ガインス
日本女子基督教青年會幹事　エー、シー、マクドナルド
同副幹事　エス、シー、フキッシャー

明治四十一年二月十三日印刷
明治四十一年二月十五日發行
東京市麹町區土手三番町十五番地
編輯兼發行人　エー、シー、マクドナルド
東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷人　島連太郎
東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所　三秀舍

日本基督教女子青年會の事に付き御尋ねの節は東京麹町區土手三番町十五番地同會事務所宛にし御尋相成度候

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『きさらぎ』二月！

おゝ麗はしき名前かな。

眞白に清き六ツの花、堅く谿間を閉して吹雪の音、猶戸外に絶えざるも、名も香しき一枝の梅花は、其が氣高き心と麗しき白衣の姿もて、此の落寞蕭殺たる冬枯の景色に、新らしき生命の光りを投しぬ。

おゝ松柏常盤の緑りを飾りて、能く朔風霜雪に耐ゆると雖も、梅花の一枝清く妙なる姿もて雪中薫風を送つて、固く鎖せる心の雲を開くと何れぞ!!

あはれ谷の戸出づる鶯の、なつかしゆかしの聞諸共、友よ、心からなる讃美の聲打揃へて、限り知られぬ神の御惠みと榮光とを稱へずや!!!

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事業と力

エー、シー、マクドナルド

『この人の世のたゝかひに、
寧ろ雄々しき猛者となり、
弱きものをばゆるせかし。』

人若し政治界の事にもあれ、教育界の事にもあれ、さては社會上の事にもあれ、或は宗教上の事にもあれ、苟くも此世の中に成し遂ぐべき事業の如何に夥多なるかを思ひめぐらせば、誰れかは其遂行の途中に横はる障害の大なるに驚きて、悚然として畏懼せざらんや。人生の事業の主要なるものは活ける人を相手とするものに在りて、眞個の改革は人の心を奥底に潜める動機に觸れてこそ成し得らるゝなれ。而して之を成就せんと欲すれば、我等は我等の事業の中に我等の認識し且つ感知し得る限りの最良の或る物を加味せざるべからず、かゝれば時に或は失望の淵に沈淪することなきにしもあらず。傳へ聞く、現代日本の政治家のうちに名だるゝなにがしの君とやらん呼び給ふ人おはす、この君日清戰役の後に當りて、軍隊衞生に關はる事を掌り、歸還兵の戰地より持ち歸りし病毒の蔓延を防ぎ止むる事業に從ひたまひしが、其間晝となく、夜となく屬官と共に身を粉にせんばかりに働きて、幾日の間は寢食をだに忘れ給ふ程なりき。かゝりし程に此の君の最も信任したまひし官吏の一人は、遂に根氣も疲れに失せ果てゝ我知らず言ひ出てぬ。『閣下、やつがれは人の力の及ぶ限りは盡し果たして、今は身も心もいたく疲れ侍り。此上は何事をなし得べしとも覺え侍らず』と。君はこの人に一瞥を與へ給へり――『好しさらば神の力を借れよ、兎まれ角まれ此事業は成し終へざるべからず。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此一語は、移して以て人生を說明することを得べし。人間の力は偉大ならずとせず、されど人力のみにては、如何に其あらん限りを傾き盡すと雖も、到底世界の最高事業——即ち活ける人の心の宮の奧殿に、眞理と正義とを植ゑ附くる事業を成就するに堪ふべしやは。如何なる手段を採ればとて、また如何なる徑路に由ればとて、畢竟徒勞に終らんのみ。

人生には、高き理想あり、されど如何なる英邁俊爽の人にても　自力を以てしては到底之に達することを得ず。かの只眞正の事業のみ克く直接間接に人々の品性に感化を及ぼすと云ふものは、豈熱狂せる宗教家のたわけたる口吻として一概に附すべけんや。歷史を繙けば我等は直ちに、政治家、敎育家はた宗敎家の不朽の事業として後世に傳唱せらるゝものは、盡く一代の人々の外形にはあらぬ內在の心緖を動かしたるものにあらざるなきを發見せん『かの義は國を高く』すと、遠き昔の賢者が云ひ殘しけん言と葉は、之を今日に施しても愆らざるにあらずや。

されどいつの世にも事業は盡くると云ふ事なし。世は偉人出現して、絕大の同情をもて社會のあらゆる病根を芟除し、破邪顯正の大業を遂げ、義の戰を宣するを待てり。而して此事業の速かに成就し、此戰の早く終結せんためには、抑も如何なるものを要する乎。曰く、神の事業には神の力を要す。さらば神の事業とは何ぞや、曰く、人生の病弊を匡救して、世をして正しきに就かしむる事、即ち是れ也。

事業に從ふ者の數の多きこと、必ずしも望ましからず、要は只有力なる事業家の多からん事のみ。換言すれば事業に要する眞正の力の何なるかを了解する人々の多からん事のみ。さる人は言ひにき、『我等がなさんとする事業が、我等の性格力量に超過する時は、我等の人生觀は實際的にはた道德的に何等の價値なきに至るべく、斯る時は我等は我等の靈魂の戰場に立ち歸りて、再び訓練を受くべきなり。そのためよし事業の着手に遲るゝ事あらんとも、神人共に我等を許さん』と。善いかな、言や、

我等の多くは、人生の戰鬪に從事せんとするの念切々熾んなるものあれども、動もすれば有力なる戰士となるべき準備を怠らんとする傾なき乎。蓋しその準備には內心の戰鬪を必要とし、而して自家靈魂中の戰場に於ては、他人の生活に於ける戰場に於けるが如く花々しき武者振りを示すことを得ざればなるべし。而かも究極する所、他人を救はんがために戰を宣せんと欲せば、我等は先づ自ら反省して自家心中の敵を驅逐せざるべからず。今や東京に於ては多數の新兵は、異日有事の時、祖國を完全に守護せんがために、日々訓練を受けつゝあるを見る、而かも試みに思へ、若し此等の新兵が毫も訓練を經ずして實戰に臨まば、結果はそも如何なるべきぞ。さても訓練の日の長く且つ難澁なることよ、さはれこれは實際上に於て極めて必要なるを奈何せん。準備の効果は決して虛しきものに非ず、さなり、準備なくては人は强者たることを得ざるものぞ。主キリストは左の御詞のうちに、力の定義を示したまへり。曰く、「されば爾曹も亦預備せよ、意はざる時に人の子來らんとすればなり。」また主は「その主人の意思を知りて而かも豫備を敢てせざりし僕」の例を借りて、人の弱點を責めたまへり。是れに於て乎、我等は最後の斷案に到達せり、何ぞや、曰く、眞正の準備は神靈と接觸する間に在り。

此世は事業家に充てり。彼等は繁忙なること蜜蜂の如く、孜々汲々として生存競爭に餘念なく、或は此の改革に、或は彼の運動にと、席暖まるに暇なし。されどその多くは所詮「人間の事業を人間の力にて經營す」るに過ぎざるのみ。されど世に病根の除去せられざる限りは、邪惡の殘存する限りは、かゝる事業に愈まさりて大なる事業あり、「神の力に依りて神の事業を經營す」ることと卽ち是れなり、若し人道の戰士にして神靈の氣力に充たされんか、罪劫の醜敵も忽ち雌伏して、六根淸淨の境地を現出せん。內に神靈の氣力を宿す人は自ら外敵に對して强硬なり。

初代基督敎戰士の一人は、神の御國のつはもの丶常

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に帶ぶべき物の具を數へあげたり。そはそも何々ぞ、曰く、『正義、平和、信仰、救ひ、神の御詞及び祈禱』なり。强からんことを希ふものは、絶えず此等の物の具に身を固めざるべからず。

神の力は希ひて求め得べきか、然り、人生が空夢に非る限りは、求めて得べからざる理なし。我等は動きもすれば『我は人間の力の及ぶ限りを盡せり、されど我が事業の我が力には重きに過ぐるを奈何』と。さもあらばあれ、神は我等に過重の事業を成すの榮譽を與へさせ給へるなり。彼の初世紀の一偉人は云はずや、『我は我に力を與ふるキリストにより總ての事を成すなり』と。又彼に先ちて墜落せる時代に傑出したる人豪は叫びぬ、『爾曹平穩にして依り賴まば力を得べし』と。

人品と宗教

野村佐一郎

夫れ人は、下等動物より進化して現今の狀態をなせり、而して今日の人品と太古の人品とを比較するに、元より今日の進歩は昔日の比に非ず。此れ一に、向上的精神の然らしむる所以に外ならず。今かりに、地球人類の人品を大別して之に階段を付すれば即ち左の如し、

一、身體體格
甲、强健
乙、普通
丙、薄弱
丁、不具

二、學質
特、中和的人品
甲、膽計質

一、學識
○特、博士、學者
甲、高等專門
乙、中等(高等普通)
丙、普通(初等)
丁、無學、無教育

二、宇宙人品(宗教)
甲、信仰、安心者
乙、不滿不信仰者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

乙、多血神系質
二、社會人品、(道德)
○特、有功、有德者
甲、有志
乙、凡人
丙、俗物
○地位、身分別　○博有力者 ｝紳士　○甲、高等　○乙、中等 ｝士
○丙、普通　○丁、最下級(勞働者) ｝庶人

今や、世界の各文明國は、進んで、衞生を重んじ、病院を起し、體育を完全にし、次に、義務敎育を、普及して、古代多かりし(否現今にても、世界人口の過半を占むる、支那(四億)、印度、(三億)、亞弗利加(一億五千萬)其他に於て、尙義務敎育の制なく、悲しきかな、學力より見て、丁種、(無敎育)の者多し)無學のものなきに至らんとす、然れども未だ、歐米の文明國を以てするも、中等敎育を義務敎育とせる國あるを見ず。思ふに、社會敎育家の理想は中等敎育(高等普通學)を義務敎育とするにあらんも、社會の富力未だ、十分發達せず統計より見て、比較的一小部分、(日本にては、三十戸は一戸の割合にて、中等敎育を受けしものあり)に占領せらるゝは、遺憾なり。

而して、更に遺憾なるは、斯くの如く、敎育の不及せざると同時に、世界の人類の多數は、中和的人物にあらずして、一方に偏せる人多く、感情及智識に欠乏せる意志の人あり、又、果斷力決行心なき、感情の人間あり、次に、尙現今社會人類の多數は、俗物殊に多く凡人又多く、有志、君子の少き事驚くの外なし。斯くの如きは、即ち、社會相互の間に成立する道德を知らざるに依る、而して、更に一層、望ましき人品は何ぞや

○一言以て之を盡せば、宇宙的人品、宗敎的人品之あり、夫れ、道德は、社會國家、人類を標準とし、相互的、差別的のものにして、概ね、君子、父子、朋友、兄弟、長幼の道なり、然るに、一考せよ、子なき人、朋友なき人、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

兄弟なき人は如何、孤島に流されたる一人者は道德ありや、交際場裡より離れし病床の人は、道德ありや、老ひて、此世の功を終へし人は如何、否、一人淋しき、夜半は如何。噫呼、人は、宇宙の我たらざるべからす、絶對的の我あらざるべからず、道德の如き、相對的のものにあらず、義務的のものにあらず、道德は社會の義務のみ、道德以外に吾人は、吾人の本道を有す。即ち、宇宙の我としての自由平等之なり、大悟信仰の向上は之なり、人の本は、この絶對的のものなれども、人多く、住居相接し、相交易し相交るが故に、仁義禮智信生ず。然れども之は義務のみ仁義禮智は、絶對の我を發現する所以のみ、向上せしむる方法のみ、向上の本體は、之にあらず學生學校に入る、師弟の禮あり。禮は、學校の目的にあらず、義務のみ、目的は、即ち、我智力を增進し、能力を發輝し、幸福を增進するにあり、自己を向上するにあり。禮は己の力を向上せしめず。

世人もし、道德交際を以て、最終の目的と思はゞ、大なる誤なり、人、相語るや先づ、時候の禮あり、然れども、之れ、義務のみ、談話の價値は內容にあり、內容の談話の事項、自己及人類の、向上、增福に、邪魔なれば可ならず、然らば、本體とは何ぞや、本體とは、宇宙に於ける我を自覺するにあり、先づ、首頭を天に向はせ、遠く、天界を望み、地上の我を脫せよ、無限の廣さに於ける我、宇宙無限の時間に於ける我が一生、數十年、噫呼、如何にかして我が短かき一生をして、無窮あらしむべきや。此の小き我をして、如何にして、宇宙に、滿たしむべきや、進化論は、敎へて曰く、子孫永續以て無窮と。然れども、子孫は、往々我意の如くあらず、又人により、子無き人あり、早死する者あり、我は、如何にして、我を宇宙無限の時間に永續せしむべきや、百萬の富力か曰く否、帝王貴族の權力か、曰く否、神か、おゝ其の神とは何ぞや、宇宙の廣さは、精氣と、物質とあるのみ。又、神に、信賴して、無窮ある如き、宇宙の眞理にはあらず、自力によりて、宇宙を大觀し、宇宙に同化するのみ、時ありて、再び、地球、又は、他の遊星に、人として生れん、あゝ之れ宇宙の理のみ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

願くば此世界より、不滿不平
　怒氣、悲聲を絕斷せしめよ、
不平ある人、怒り易き人、不滿憂苦ある人は
到底之宗敎の根蔕なき人なり、大悟なき人なり

（終）

苦の思出と樂の思出

櫻　喬　生

西の國なる、さる詩人は歌ふて曰へり。

「世に樂しみの數々あれど、塵收まれる夜の窓、靜かに過ぎ來し方を偲びては、彼の詩人等が詠み出にけん想像の樂しみとやらも、をさ〳〵劣るまじう覺ゆ。あはれ幼時のおのがさま、母の懷ろ節おもしろき子守唄に、我れ知らず溫かき夢路を辿りては、御園に香る梅の花、さては鶯の聲も流れて「母ちやん、取つて……」と母の眠りを驚かしたるも幾ぞ度か。あるは雪降りしきる冬の御空、煖爐の傍に集ひながら、おもしろをかしの昔語りに、夜の更くるも知らず聞きつめたるも、思へは樂しき長夜の夢なりけり。さはれ此等草々のこと共は、僅に過ぎし樂しみの一片に止まれるも、かくて盡くべくもあらぬ思ひ出は、折りふし堅く鎖せる悶への憂き雲打ち拔きて、如何ばかり人の心を慰めぬらむ。實にや過ぎ來し苦悶の境涯だに古きを偲ぶ今となりてはなか〳〵に樂しく嬉しき心地こそすれ」

　何人に限らず、人は一方、行手の希望に照らされ未來成功の影を追ふて日一日と理想の境涯に近寄るのを無上の樂しみと感ずると同時に、又他面過去の我なるものを回顧追想して無限無量の興味を見出すものである。

　困難は何人に取つても一種の苦痛であるに違いない。苦痛ではあるが然し、一度此の境涯を通過して了つてみると、恰も入浴數日の汗を流したやうに、非常に心地能く感せられるのである。回顧の樂しみも然うて既に過去となつた苦痛は非常に深い快味と興感とを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

與ふるのが常てある。之に反して樂しかりし境涯、さては甘露得意の時代も後に至つて之を追想すると、吾人は一種懐かしい興感を味ふと同時に、又他面稍ともすれば一種深刻なる苦痛と寂寞の感想とを嘆かざるを得まい。

嘻樂しみの盡くる處、之れ一種の苦境、苦の窮るところ之れ甘樂無上の樂園て、苦の低度と回顧の樂しみとは正に正比例をなして居るのではあるまいか。

たてよいざたて　主のつはもの
みずや御旗の　ひろがへるを
すべてのあたを　ほろぼすまて
君はさきだち　行かせ給はむ。
たてよいうさは　やがてをはり
とはのからうた　たか／＼歌ひ
つきぬいのちの　かむりをうけ
さかえの君と　ともにをさめん。

誠の力

生は嘗て友人に麼這實話を聞かされたことがある。

さる田舎の富豪の家庭に一人の愛兒が居た。其の富豪といふのは既に數十萬の富を重ねた四十近い温厚の男て、一方家長として立派な銀行を開き、他方に於ては運輸造船事業を起して盛に活動し働いて居たが、何分家事が繁忙て事務が心身を疲勞せしむるので、一週一日の日曜が來るを待ち兼ねたやうに獵銃肩に、一日を郊野に愛犬と樂しく過くして、暮には可なりの獲物を携へながら、嬉々として家門を入るのが常てあつた。

處て其の夫人と云ふのは、大の佛法信者て頗る信念の強い堅實の人てあつた。て良人の仕打を見るにみかねて、折々は殺生の殘酷なること、佛の御心に悖つて居ることを説いて狩獵の中止を乞ふたが、なか／＼聞き届けられさうもない。良人は好きな道とて毎日曜乾度銃を肩にして山野に狩りをする。技の進むと共に狩獵の妙味は愈加つてきたらしい。

寒い冬の一日、良人は例のやうに、愛犬と共に一日を樂しく郊野に過して、毛も房々しい二頭の野兎を携へて歸つてきた。夫人は笑顔で迎えて、湯を勸め、食

卓の準備をする。獲物の野兎は下婢に命して椽先きにつるさした、が實を謂ふと今日も夫人は此の愛らしい可憐な野兎を見て心より憐愍の情を湧して居たのである。

お湯も濟んで食膳も終つた。すると今年五つになる愛兒が父の傍に甘つたれながら、不意と椽先きの野兎を見て、

「お父さん、兎だつて鐵砲で射られたら苦しいでようね………」何心なく父の顏を覗きながら、斯ふ云つた。母は耐えかねてヒッシと愛兒を抱き寄せた。此一語が非常に父なる良人の心を動かしたと見えて、即座に夫人の前で誓を立てゝ、あれ程樂しみにして居た唯一の狩獵も其後は一切中止したとのことである。噫一念淸らなる誠の情操は何と貴い強大なものではあるまいか！

人は理論で押しつめられても、なか／＼服從の出來るものではない。誰だつて負けぬ氣と痩我慢の少量位は相應に待ち兼ねないものでもない。此の良人たる人に就てみるも、よしや友人妻君などが、如何程精細嚴密な論理的辨舌を以てしても到底彼れが唯一の慰籍道樂たる狩獵を廢止せしむることは出來なかつたであらう。よし出來たとしても、餘程苦肉策を講じた後でなければならぬ。否、單に納得せしめたといふに止まつて必ずしも心情より首肯せしめ服從せしむることは出來なかつたであらう。然るに一幼兒が心情の一語、能く父の肺腑を貫いて即座に父の殘忍酷薄な所業を止めた。何と偉大ではあるまいか。

蓋し彼れ幼兒には一念麗しい流露の誠があつた。無限に大いなる確固不動の信念があつたのである。噫此の一念　よしそが幼兒たると、婦人たるとを問はず、唯一意麗はしい誠の情が燃え立つて居るとしたならば、眞に偉大なる力を具有する點に於て何の差別があらう。人間心情を左右し、天地宇宙を支配するものは實に貴い、誠の一念ではあるまいか！

宗教の中心は何か。曰く一念淸らなる誠は其れである。誠のない宗教、之れ所詮は死せる宗教、感化なき宗教である。人を動かし、人を勵まし、大山不動の信

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

念を與ふるものは是れ正しく誠の一念である。吾等が口にする「愛」なるものは最もよく此の誠の表現せられたものでなければならぬ。堅き信仰も此の一念を缺乏しては成り立たぬ。人間感情の美は總べて其の根蔕を此處に据へて居らねばならぬ。

繰り返して謂ふが、眞に人を支配する所の者は、百萬の軍勢に非ずして唯此の麗はしい一念の「誠」である。或る人は『信するは之力也』と云つたが吾等は深く此の一語を翫味すると同時に、又一念流露の誠なるものが、其の根蔕に深く湧き返つて居ることを忘れてはならぬ。

最後に生は讀者諸姉に向て、改めて次の一節を推擧するの榮を深く神に謝するものである。

其の時弟子潛かにイエスに來りて云ひけるは、我儕之(惡鬼)を逐出すこと能はざりしは何故ぞ。イエス彼等に云けるは、爾曹信なきが爲也。我誠に爾曹に告げん、もし芥種の如き信あらば、此山に此處より彼處に移れと云とも必ず移らん。又爾曹に能はざること無からん。……(馬太傳第十七章十九、二十節)

聖書研究

イエスの祈禱(下)

柏井園

凡そ我か屬は汝の屬、汝の屬は我が屬なり、且我彼等に由りて榮を受く。

(ヨハネ傳第十七章)

イエスは己に屬する者はたゞ己に屬するにあらずして神に屬する者として之を重んじ、神に屬する者は己に屬するものとして之を視む。然して予等も亦イエスの外祖の賤しきに係らずイエスの裡に神の榮を認めイエスに無上の尊敬を呈したり。イエス世に在る間弟子との關係の如くなりぬ。

我今より世に在らず、彼等は世に在り我は爾に就き。

聖き父よ爾の我に約せし者を爾の名に在らしめ之をほりて我等の如く一になし給へ。

　此の節の前半は前につゞきて祈りの由て出つる理由を云ふ。たゞ前は既往の事に關し此節は近き未來の事に關し此節は近き未來の事に關してイエスの世を去ることを云へりと然して次に祈りに移つる。此節の後半より十五節の終までは專ら神の彼等を守らんことを祈る。この祈りの主意に照して聖き父より神を呼ぶは最も適當なり。爾の我に賜りし者を爾の名に在らしめ之を守りて改正英譯には爾が我に賜ひし爾の名の中に之を守りてと改めあり。其の意味は神がキリストに委ね給ひし啓示即ち神の父たる啓示を失はざるやうに守るの意なり◎我等の如く彼等をも一になし給へ　直接に神に守らるゝのみならす。イエスに合體するによりて弟子相一致して世に勝つは守らるるの道なり。

十二　我等と偕に在りし時彼等を爾の名に在らしめて守りたり。爾の我に賜りし者を我れ守りしが其中一人だに亡びたる者なし唯沈淪のみ亡びたり、是れ聖書に應はせん爲なり。

　沈淪の子は希臘の熱語なり。イスカリオテのユダのことなりて聖書は詩篇四十一九に『我が恃みし所我が糧を食ひし所の我が親しき友さへ我に背きて其の踵を擧げたり』とある所などを云ふならん。

我れ今爾に就る。我れ世に在りて此事を語れば我が喜樂を彼等に充たしめん爲なり。

　語れるとあるは語ると改むへし、前に弟子に語りし言にあらず現在神と語りつつある言を云ふ、然して原語は高聲にて語るの意あり。イエスは聲高く神に祈り給ひしと見ゆ。其の目的は、ただ神と語るのみならず、祈りに與かる弟子をして、イエスの神と交りし心に充つる喜びと同じ喜を感ぜしめん爲なり。

十四　我れ爾の道を彼等に授けたり。世は彼等を惡む、之は我が世の屬に非るが如く彼等も世の屬に非ればなり。十六　我れ爾に彼等を世より取りたまへと祈らず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たゞ彼等を守りて悪しきに陷らす勿れと祈る。

キリストの弟子は世の屬にあらず然れども世を離るゝものにあらず。世には進退さるゝものなればなり。然れども世に遣はるるにつきて祈る前先づ世の罪悪に染まざる爲に祈りたり。

十六　我世の屬に非る如く彼等も世の屬にあらず。

これは次の節にかけて見るべし。

十七　爾の眞理を以て彼等を潔め給へ、爾の言は眞理なり。

十八　爾我を世に遣しゝ如く我も彼等を世に遣せり。

今までは弟子の守られる悪に陷らざらん爲に祈りしが、爰に到り彼等の潔められん爲に祈る。こゝに潔むとあるは汚れを洗ひ潔むるにあらずして、聖なる目的の爲に身を献ずることを云ふ。消極的より積極的に進みたり。　眞理を以て『眞理は内より人も動かす力たるのみならず其人の生活する空氣なり。眞理の目的は知慧を與ふるにあらずして聖き者となすにあり。知慧は一節のみ有するを得れども聖きとは總ての人にあり行ふべきものなり』(ウエスコツト)

十九、我彼等の爲に自己を潔むこれ眞理に因りて彼等の聖められん爲なり。

罪無きイエスは罪より潔めらるる必要なけれども積極的の意味に於て自己を潔め神事悪業に身を献し給へり。イエスの受け給ひし洗禮は蓋し此の主意に出づ、神をして之を爲さしむる動機は何ぞや愛なり。愛は己を忘れて身を献せしむ。人として眞理により潔きものとならしむることはイエスをして己を忘れしむる大目的なり。

二十　我たゞ彼等の爲のみ祈らず彼等の教に因りて我を信ずる者の爲にも祈るなり。

これより第三段に移り弟子の傳道に因りてイエスを信ずる多くの信者の爲に祈る。

二一　此は皆一にならん爲なり。父よ爾我に在り。我亦爾に在る。是くの如く彼等も我に在る。所の如く彼等も我等に居りて一にならん爲め且つ世をして爾の

我を遣し我を信せしめん爲なり。

イエスは既に弟子の一にならんことを祈りしが、今や信者全體の爲に祈るにも先づ其の一致の爲に祈る。而して一致の根底模型は常に神とキリストの完全活潑なる一致に存す。信者の相愛一致は源を神とキリストの一致より發するが故に其の一致の完全に近きだけキリストの神より出てし事實を證明す。實際歷史に於て基督教者の一致と愛は奇跡よりも强くキリストの神より出でしことを證明したり。且つ世をして爾の我を遣して我を信ぜしめん爲なりとはこれを云ふ。

二二　爾の我に賜ひし榮を我れ彼等に救ひたり此は我等の一致する如く彼等も互に一ならん爲なり。

ゴデーの云ひし如くイエスは神に祈る時に當り、先づ自らその目的を達する爲に成したる所のものを呈し祈りを支ふ。此處も亦然りさてイエスが神より賜はりて弟子に授けたる榮とは何のことなるか。ゴデーはこの榮はイエスの子たる榮にして、榮を授くとは信ずる者に神の子たる光榮を與ふることを云ふと解す。意を得たるに近からん。同じく神の子となりし上は一體にならざるを得ず

二三　我れ彼等に居り爾我に居る。そは彼等をして一に全からしめ且世をして爾の我を遣ししと又爾我を愛するが如く彼等をも愛することを知らしめんとてなり。二四父よ爾の我に賜ひし者の必す居る所に我と偕に在りて我が榮即ち爾が我に賜ひし者を見んことを願ふそは世の基を置かざりし先に爾我を愛したればなり。

二十四節に至り、弟子及び信者が來世に於てイエスの榮に與からんことを祈る、これは新しき點なり。始の爾の我に賜ひし者はイエスを信ずる者なり。次にある爾が我に賜ひし者は榮なり。見るとは榮に與かるを云ふ。

二五　義しき父よ、世は爾を識らず、我は爾を識る。彼等も爾の我を遣しゝ事を知れり。二六　我爾の名を彼等に示せり、復之を示さん、そは汝の我を愛する愛彼等に在り我彼に居らん爲なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この二節は全體を結びたるにて意味明なり。復之を示さんとは何を指すか。パイスは彼の死によりて示すこととなりと云ひ、ウエスコットは聖靈の來るを夫に示すこととなりといふ。

○小兒を見ての祈り

可愛き無邪氣なる小兒の顏を見る毎に、覺えず我が念頭第一に浮び來るは「天の父よ、どうぞあなたの愛子たる此の可憐兒の行末を安全に護り、立派に育てさせ給へ」てふ祈りなり。而して復た彼等が地上の親に思ひ到ること、むしろ稀なり。

われは思ふ、此の神の子として小兒を思ふ一念至情の祈こそ、家庭問題の一面たる子女教育の問題を解釋すべき唯一の力ある鑰にはあらざるかと…………（深川氏回光錄の一節）

雜纂

水の姫君

辻村靖子譯

昔往むかし、或湖水のかたほとりに、貧しく生活して居る漁夫がありました。夫婦の中に、たゞ一粒種の少女があつて、親子三人仲睦まじく、淒寥しいとも思はないで、年來こゝに住んで居たのです。

とうも、八月ころの不漁つゞきて、折角はれるかと思ふと又降りたす。山は薄墨てかき消したやう、湖水は壁土色をした濁波か荒れて、漁にでることができぬのてす。

今日薄ら日かさしたので此ひまにと漁夫は縷纜たらけの仕事服をきて、昨夜から納屋の軒に、其まゝかけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て置いた投網をみると、彼方にも此方にも穴があいて居ます。夫を丹念に繝縫はなければ、復漁獵にてることができないのですから、瘠せしなひた手こくしを持つて、すくつては結び、結んではすくひ、さんざんかゝつて修繕つて居ました。漸修繕ひ終つたので、今度は溢をくれて少々日に乾すのですが、もう晩い。又あすのことゝ細引をといて、網をいくつにか綰ねてたゝんで、重そうにもつて立ちました。

一體此湖は大森林に圍繞まれて、日蔭かうといので靑すみきつてをるので、底知らずの海の、水の靈が棲んで居るのと、徃古から云ひ傳られて、誰も恐れて網うつ人もありません。山二つこして市街へでるには、是非又其大森林を、こえて行かねばならぬのに、其所も恐ろしい魔所と云はれて、旅人も隊位を組まねば、決して通過りはせぬのです。夫もまことに據なくたゝ晝中だ行け通りまするのです。

夫に此の篤實なお漁父さんは、平常は温和しい人物のくせに、決して可恐かりも惶れもせす、毎日〳〵お天氣さへよければ、きつと小舟へのつて獵にでかけるのです。と、一杯のびくは魚が滿ちさへすれば、もう其上は貪らぬと、日は高くてもかへつて來て、老嫗さんと一所とせつせと夫をやいて置いて、まとめて遙三里ほどあちらの市街の問屋へとおろしに行く、其みちはどこを通過つて行くてしやう、一筋路ですから人の可厭かる恐ろしい大森林を通行つて行きます、だか幼少いときから、こわいと云ふことを知らす、まして今は念佛三昧と、信仰深いおぢいさんですから、世々恐ろしいことはないつたといつて、歸りはいつも食料品や、お酒や又はおみやげを下げて、樂天そうに樂しそうに、何にか分らない鼻歌をうたひながら、其森林を平氣て通過つて來るのてした。

もう手元も暗くなる、夫に修繕しごとに、一心になつて、とんと氣かつかなかつたのですが、秋の習とは云ながら、あれほど霽わたつて居た夕陽のかげは、夕旗雲のたちまちてかききゆると思ふと俄にけしきが變つて、淡墨色の空合になつたのです。之は早く乾も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のをとりこまずば、今にざあつと來るに相違ないと、老爺さんは惶惑てゝ綱を引ほどくまもなく、雨は大粒なのか、バタリ々と痛い程面を撲つて、つゝいて轟と云ふひゞきがして、すさまじい風さへ加はつたのです。さあこうしては居られない、自宅では老婆がさぞひとりで居たり立つたりして居るだらうと、大いそぎで道具をまとめて、負擔て急ぎあしで來かゝると、はて不思議!

はて、立ちつゝいた、檜木林のこかげに、煙のやうに影のやうに、丈のたかい眞白な巨靈が、すつくりと立つて居るのです。老爺さんはぎよ、、、としたのですか、何か自分の眼の迷ひだらうと思つて、濕潤つた手拭で、いくども眼をふいて見つめると、果して何ともなかつたのです。いつも見馴れて居る溪河でした。湖水の水の漲り落ちて巖を打ち塞を衝いて或は靑く又白く、鏜々と矢を射るやうな、其溪流の白いのでした、何のことつだ、馬鹿〱しいと一人笑つて、綱をかゝへて急がうとすると、

今しちやうど雨もすこしこぶりになりました。すると向ふから、人の丈より高い篠竹をがさ〱、、いはせて、疲勞れはてたらしい馬を勞はり々、自身も草臥れ足を引ずりながら、老爺さんをみてうれしげに、せつせと急いで來る人がありました。老爺さんは目をそばめて、みれば年紀廿四五、眉目のすぐれた靑年で、輕裝な獵服をつけ、獵銃を肩にかけて、脚胖草鞋ばきと云ふいでたちです。

會釋して、

「私は山こえをして此大森林に迷ひ込むで……いやどうも途方にくれたのです。まことに御無心ではあるが、どうか今宵一晩、御厄介にはなれぬでしやうか。」

云にくそうに懇願ました。みれば上衣はしぼるほとに、濡しほれて、どこをどう越えてきたか、所々服は見苦しくかき裂になつて、岩角にてもつまづいたか、洋袴の膝もお臀のあたりも泥まみれになつて居る。

老爺さんは見上げ見下して、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おまへさま當ことも無い、彼の森をこして、夫ても一人て、よくてゝへてられたつけね。さぞ疲勞れさしつたらう、豚小屋のやうな居家ても構はつしやらなきやとめて上けべい。

青年は、蘇生つたやうに安心すると、もうがつかりして一足も動けません。

いやとうもとんだ御厄介て、……僕あてんな弱つたてとはありませんよ。若し貴爺に謝絶られたらさきへは行けすあとへは歸れず、

もう僕はあとへ引かへす勇氣はないてす、………

老爺さんは何故か、顔色をかへて、手をふりました。二人とも口をつぐんて、足早てしかも音をさせず、後をふりかへらぬやうに歩行くのてした。（つゞく）

行く道

秋郎

一

人の世の愛にはぐれて
君はしも樂しみぬ人形を
朝夕に抱きしめて
ゆかしさに唇吻を
あまたゝび重ぬれば
愛着のほむらたけりて。

二

人形は涼しき目
かほそき口に乳白の
頬にちりばめる薔薇色
ふくよかにまためづらかに
さなからの活ける幼子。
身なからを愛にさゝぐと。

三

君こそは愛の君
その頬の冷たくて
唇のかたきこそ
かへてまた愛慾を
湧かしむるかたきなれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いぢらしさ堪へがてに。

四

君曾て慈母より
接吻のうまさをえ
あたゝかき吐息の香
忘られぬ夢うつゝ
あこがれて母そばの二人の子
愛しけりひたすらに。

五

愛してはいたみある
世の人に棄てられし
さびしさに
わかやげるにほひ失せ
慈悲相のかげも見えねば
幼子はなづみ來ず。

六

愛えむとためらいて
弱き子の悶こそ
すてられてあかれたる
愛着の君なれば
煩ひは絶えずして
妄想の狂(くるほひ)も安からぬ。

七

君は云ふ「人の子を
めづるよりけに傀儡(くゞつ)こそ。
*局(つぼね)の君もめでたれと
やるせなかりしその日より
抱きもひめしこの子ぞ」と
愛に自由のほしければ。

八

君かくて人の世に遠ざかり
獨りたゞ抱きしめて人形を
あさる書は愛の文(ふみ)
愛の垂訓(をしへ)の基督(キリスト)を
君は與かり會堂の
石ことことゝ登りより

さくは胸打つ愛の韻。

九

さて胸はひらくる思
鏡こそ聖書にあなれ
地の愛の戀にあせにし
影をこそふと見たれ
其の影にさゝやきぬ何者か
仰がずや光照る神のおも。

十

この世たゞ愛してぞ
行く道の開くべく
やがてまた愛せられ
いたはられ送られて
御光のさえかへる
今はよりかの世へと。

（了）

＊（附、）局の君とは故中山一位局を云へり此篇を筐底三年も秘藏せられしと傳ふ

毛織物洗濯法

安川すみ子

毛織物即ふらねる、せるちめりやす及毛の交織等は。あるかり性液には甚しく抵抗力弱く且湯水に入るれば尺巾短縮も易きが故に常に左の點に注意すべきなり

第一　温湯を用ひ熱湯冷水を避くべし、

第二　石鹸の溶解水を用ひ決して石鹸をこすりふくべからず

第三　洗濯の際、揉むべからず只洗濯液中にてつかむ様にして洗ふべきなり然らざれば布地短縮し織目密着すればなり故に採るときも成るべく水を壓し切り捨るべからず

第四　色物は色の出てぬ内成るべく速やかに洗ひ終らざるべからず

第五　成るべく早く乾かし決して濕りたる儘捨て置くべからずこれ過度の冷熱は纖維を收縮せしむればなり故に火熨斗も餘りあつからざるをよしとす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

洗濯順序

第一　善く振り塵を拂ふ（塵止まるときは布目につき容易に取り除く能はず從て色を悪くす）

第二　石鹼の溶解せる温湯又は之に少量のあむもにやを加へたる温湯中にてつかむ様にして洗ふ而して特別汚れたる部分の外は石鹼をこすりつけもむべからず若洗濯液よごれたるとき即餘色つけるとき又は石鹼の泡立きゑたるときは更に適當の石鹼或はあむもにあ等を加ふるか又は必要に應じては全く新たに洗濯液を更へ洗はざるべからず

第三　温湯にて濯く。若し毛織物にて石鹼を吸ひねちく〱とし石鹼の臭氣去らざることあるときは曹達水にて濯くべし。かくすれば吸込みたる石鹼の出づるものなり

第四　後搾り器械を通すか或は地質のよらぬ様布片につゝみ水を壓し切りよく振り毛並を起し温氣を成るべく取去るべし

第五　風通よき冷熱劇しからざる處にて早く乾かすべし

第六　乾きたる後一旦霧をふき暫く巻疊み濕氣の平等に廻りたるときあまり熱からざる火熨斗をかくべしせる地或は鑞のため光りやすき地質を火熨斗するには別に霧をかけず濕ひたる布を上にのせ其上より火熨斗し布の乾かぬを度とすべし

注意色物は終の濯水に硫酸或は醋酸を入るゝを可とす古洋服を洗ふにはソーダの溶解せる温湯をよしとす。

絹物洗濯法

絹物洗濯は毛織物と略同じけれども只絹物は光澤を失はぬ様手觸を悪しくせざる様注意すること肝要なり

先洗濯液に入れつかむ様にして洗ふか又は物によりては板にのせぶらしの如きものにて丁寧に洗ひ決して揉むべからず。これ

(1)　絹絲に毛端を出さしめ光澤を損し

(2)　織物の組織の平均を失はしむるにあり

洗ひし後は二三回温湯にてすゝぎ最後に冷水にてす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゝき上ぐ。白色なればきんびろの液に入れ靑味をかく。水洗終らば稀薄なる醋酸液を通すべし斯くするときは

(1) 手觸りを善くし

(2) 絹鳴を出さしめ

(3) 光澤を生ぜしむ又染色あるものにてあるかりの爲に脫色又は變色したる色は後色も且色の留あることあり

石鹼ソーダ印アルカリ液にて色のちり出やすき絹物はフスマ湯にて洗ふをよしとす

絹物に付くる糊は一般に布海苔を宜しとす又「ゼラチン」と「ラカンドゴム」等もよしとす是等は他の糊に比へ絹の光澤に影響すること少なければなり

絹物の火熨斗はあまり熱からざるをよしとす

先生

安田尙義

中西屋の後に外濠線の電車が止まる、乘り降りの人て一時ごたごたしたが、車掌がベルをチリン〱鳴らして運轉手に合圖をする。「動きます」と云ふとごと〱と進行し始めた。九段線との交錯點をガチリと音して過ると駿河臺へ爪先上りとなる。

不圖、目に付いたのは、此電車が過ると今迄待合せて居たものと見へてぞろ〱と、線路を横切つて九段の方へ行く一隊であつた。何れも二十歲前後の洗ひざらしの小倉服を着て居る。多分田舍から博覽會見物に出て來た學生であらふ。電車と云ふ怪物が襲ひわすまいかと恐るゝ樣にキヨロ〱左右に目を配つて隊伍もばら〱に驅足てよぎつた。私共學生は他の學生に逢つた時第一に目を注ぐものは其帽子の徽章である、此時も私は彼等の帽章に注意することを忘れなかつた。

「師」と云ふ字の眞鍮の徽章！疑ひもなく師範學校の生徒である、と知ると「あゝあれが今に先生になるんだな、道理で何奴も菜ッ葉の樣な顏してる！」之が其瞬間に起つた私の心中の聲であつた。何となく哀れな樣な感が胸に湧いて……　すると私は未だ中學に居る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時分、師範學校の生徒を見掛けては、(中學生と師範生とは能く反目したものだ)寄つて集つて「官費々々」とか「地方税」とか嘲るので、先生の卵の恨めしげに見返り〳〵一散に驅けて行つた後姿があり〳〵と目前に浮んで來る。夫が又時の間に、黒眼鏡を掛け色氣のない郷里の校長先生の貪相な顔に變る。此先生から私共は「ハトハナ」と始めて字と云ふものを敎はつて修身の時間には楠正成とか高山彦九郎とかの話を聞かされて此上もなく面白く感じ恐しい豪い先生だと尊敬したものである。自分はもう永年歸國しないので先生に逢ふ機會もなかつたが、今は何をしてお出だらう。?左樣々々、たしかS君に逢つる時だつたつけ、先生は休職になつたとの話を聞いたのは。

「休職?ホントウカネ夫は?」

と、私は驚いて尋ると、友は

「ムヽ眞實たつてよ、それ小學の敎師してるY君ね、彼から來た手紙に左樣書いてあつたんだもの」

「ヂヤア。一體理由はなんだい?」

「考朽だとち、新しく來た郡長がね、君、頻りに「新時代には新人物を要する」と云ふ句を振り廻して——大臣の演説かさもなくば雜誌の論説にでもあつたんだらふ——老朽陶汰をやつたんだ相だ、郡役所なんか總代りだと云ふぜ。」

「すると先生は今迄は何所に居られたのかね?」

「石河内さ、君なんか行つたこともあるまい、素敵に田舎なんだ、あの先生もねえ君、僕等が敎つた友垣の全盛たつたよ、南先生と云つて見給へ、誰一人尊敬せぬものはなかつたぢやないか、けれとも人間の末路と云ふものは果ないものだねえ、先生が美々津へ轉任せられてからは酒て身を持ち崩す、——尤も不平もあつたんだらふけれとも。それから唐瀨に遣られる。奥さんが死ぬ——おヽさうだ、その奥さんの死は必定先生の精神の死だつたんだねえ、がらりと人間が違つて來ては、其後のことは云ふに忍びんよ、何でも唐瀨も詐——詐僞をしたとか云ふ樣なうわさで、村の人から、たヽき出されん樣にして石河内へ移られたんだ相だ。彼地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でゝも矢張り同じことだつたらふ、君、人間も如何なるか別らんものだねえ！」

私はS君から聞いた話を思い出して限りなく感慨に沈んだのである。古いものが朽ちて新しいものが次第に代つて……行く有樣は只冷かに社會の新陳代謝であると觀過して居られやうか、賞められ、好かれ、尊まれた者が、枯れかゝつた挿花の樣に社會の隅に捨てられて顧て吳るゝものも無くなつて了ふ。末路！五色の七草咲き亂れた花野を走る一すぢの道も遂に尾花の蔭に消へ行く哀れさ、末路とは誰がいひ初めた文字であらふ。としみ〲胸にこたへたが、何時ぞや動物園を見物してさるやんごとなき御方の御乘馬で有たとやらが、美しい厩の中に貧しき民が一生味われぬ樣な食物で安らかに飼はれて居るのを見たことを思出して私は惡寒に襲はれた樣にぞつとしたのである。

あの一群の生徒も今に先生となつて妻を迎へ子を產んで毎日機械の樣に生徒の守をして、年取つて、老朽して捨てられて了ふのであらう。何所の師範生にもある活氣のない瞳、蒼い頰、物愛げなスタイル、感情を押へ付る、彼等の敎育は青年の生氣を奪ふて代ふるに之等のものを與へるのである、老い先の永い彼等の生涯は遂に若々しい青春の血を見ずして終らねばならぬのであらう、——

思は夫より夫に飛んで果しもなく夢の奧に徘徊して居た。私は乘しん電車のがたりと一ゆれしたので「ハッ」と吾に返つた。丁度女子高等師範門前に停車したのである。何心なく窓から門內を覗くと二三人の海老茶が話しながら出て來る。何れもコンマ以下の面相、「敎員などする女に碌なものは居ない、鳥の町許りだ！」と思ふと忌々しくなつて直に目を轉じてお茶の水橋を行く士女を眺めた。中に葡萄茶の洋傘に帶から下のみを見せて行く美しき女がある。帶の色と云ひ裾の吹き具合と云ひ恐ろしう品が好い。私はそちらに氣を取られて居ると隣りにどしりと倒るゝ樣に腰を下したものがあつた。一目見ると「何だ汚い奴！」と覺えず舌打した。白地の大名縞の筒袖て、お山上りの樣に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

菅笠を背負つて脚半を着けた足には汚ない駒下駄を穿いて居たので——。その男は其儘すや〳〵と寢むり込んで了つたから、全體どんな顔してる男だらう、と、そつと横顔をのぞいて見ると朝鮮髪を生した年配五十位の色の黒い男であつた、が私は何やら見覺かある樣な心地がしてならぬ、はてな——はてな何所かで見た樣だと思つたが如何しても記憶に浮ばない、其中に老人が乘り込んで來たので私は席を讓つて彼の直ぐ前の皮にぶら下つて立つた、眞正面からぢつと其顔を見つめた。少し仰向に窓に倚り掛つて手足を伸して眠つた姿が如何にも疲れた樣子で、吐く息迄が深く底から人生の苦惱を吐き出すかの樣な氣がする、既に前から人生の悲哀に心を亂されて居た私は今又、目のあたり浮世の涙に、もみつぶされたやうに恐しい姿を見せられては到底堪へ堪へられない程苦痛を感するので、一刻も早く此電車から降り樣と決心した。併し此時は最早電車は順天堂病院の前を通り越して居た。次に停車する所は元町である。其所までには未だ可なりの距離があるが、其男の前に立つて忍びぬので、私はよろ〳〵して電車の降り口の所に立つて外を眺めた、其刹那である、「松岡先生!」と呼ぶ聲が胸の奥の奥に響たのは——左樣だ、松岡先生だつた。と自分は初て此男の名を思出したのである、郁文館で私共が幾何を教はつた先生である。何時でも前の二十分間位は種々な興味ある話をして皆を笑はせらるゝが常で松岡先生と云へば如何樣生徒からでも慕はるゝ好人物であつた。私は中等を卒業してから四年絶つが、其間一度も先生へ逢はなかつただもの。見忘るゝのも無理はない、夫にしても此姿は？矢つ張り先生をしてお出なのか知ら……若しや何かの都合で先生を止められたのではあるまいか、此弱々しく疲れ切つた風の姿、あの元氣の良かつた先生が四年の間に斯樣にも……日曜の遠足の歸りの疲とも……いや今日は日曜でない！日曜でないのにと思ふと愈々不審だ、私はもう胸の呼動をさへ覺へる樣である。あの疲れ方は決して一時的のものとも見へなかつたと思ふて又車内を覗いて先生を見た、能はすや〳〵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と眠つて居らるゝ。
自分は先生の前迄行つて、先生と呼んで見やうかと思ふたが、何となく恥しい樣な感がして能く眠つて居らるゝ者を起すのもと强てあきらめを付けて、其儘にして了つた。電車が元町て止つたので、私は下り樣としたが、數日の後は東京を去るから先生とも之が一生の別れだらうと思ふたので懐はしさの餘り又振り返つて見た、先生は矢つ張りすや／＼と眠つて居らるゝ。
「お下りの方はお早く願ます」と車掌の濁聲。
私は遂に降車て了つた。電車はやがて又スーッとレールの上を滑つて行く。あの中に又と逢はれぬ先生は眠つて居らるゝのかと思ふと追つ馳けたい樣な氣も起る。私はもう六年間覗なれた總ての人や物に別れねばならぬ。再び上京するの日があらうとも思はれぬが、若し其樣な時があつたのも變化の多い修羅場の此都會で、今の人、今の家、今の森が見られ樣とも思はれない。あゝ人は日毎に老ひて行く、老ひて捨てられて行く。

もう、今の電車は見へぬ、毎日こんな鐵路を走つて居て何處から何所に行ふとする、あゝ先生は――！松岡先生はあの電車て遠い所に捨てに行かるゝのではあるまいか！
先生！
松岡先生!!
私の心は斯う叫んで呼び返さうかとばかり枉した。
更に「自分も先生になるんだ！」と思つた時、云ひ知れぬ哀愁の念は私の胸を鎖したのてあつた。（終）

さまよへる聖者

ヘンリー、バンダイク、
櫻　喬　生　譯

床は一面に白き文彩ある深緑の瓦もて敷きつめられ拗れたる銀の方柱は青色の壁に向て立ち、其が上方穹形なせる窓邊には、諸天人淸話の圖ありて淡靑の絹地もて蔽はれたり。圓天井には同じ青色の石もて舗きつめられつ、さながら大空星屑を蒔き散らした

らん如く、美しき晴夜のさまにも似たりけり。

屋根の四隅よりは、神々の舌と稱する黄金作りなる四個の魔輪ありて、東方神壇の後背には二個の深紅を帶びたる雲斑石の柱あり、其が上にはおなじ石の楣ありて羽ある天使弓に箭をつがいたるが、正に弩弓を引かんとする像をば刻みたり。

屋臺に開ける柱間の戸口は、床上、射還へる數萬の黄金を綉して、宛然成熟せる石榴かと見る美しきカーテンもて蔽はれたれば、室は自づと靜寂の氣に滿ちて蒼白の大空、銀星光芒を競ふところ、東方仄かに紅おぶる薄雲の靆きたるにも似たりけり。あはれ此の光景！明かに家の主人が日頃の注意と品性氣質の高雅とを示して餘りあるべし。

歌聲止むや、アルテーバンは友なる客を導いて、室の西隅設けの席に案内し、さて一座を見渡しながら、

「今夕、忠實なるゾロアスターの敎徒として、乃至は清なる神に尊崇の情と信仰の念とを捧げんが爲に、遠路來席せられたる方々に向て、我が厚き感謝の辭を捧ぐ。吾等は謂ふまでもなく火敎を奉する國民に非ず。然はれ此の光輝ある燈火こそは、萬物の中至高至純なるもの、いしくも神の御心を表示せるものといふべし。あはれ此の一點美しき燈火こそは、眼前鮮かなる光明と眞理とを示して餘りありと信ず。方々如何にや思ぼし給ふ？……」

敬虔なる父、アブガルスは、やをら口を開きて、

「いしくも申したり。凡そ知見の眼、明なる人は誓て偶像禮拜の愚をなさじ。彼等は事物形體の幕を排して、一念直に神の本體に接するを常とす。あゝ新なる光りと誠とは、古き表象の中よりして絶えず、我等が胸裡を流れつゝあるに非ずや。」

アルテーバン襟を正し、

「方々、暫らく、我が云ふ所を聞き給へ、我等が最も古き表象の中よりして認め得べき新らしき光と眞理とを語らむに

流れ行く水、罪燒く焰、さては天に輝く美しの星、吾等は幾とせか自然の秘密を望むで之を求め憬れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しぞ。加之、彼のいひ傳えたる豫言の書類をも手にして、殆ど雲を攫むが如き文字を辿りつゝ朧ろかに未來行末の世のさまを讀みぬ。さはれ、こよなく尊きものは天なる御星の敎にこそあれ。我等此のみ星の敎へにだに從ひ行かば、生涯闇なす神祕の道も一念高妙の御光りに照らされて、些の誤なきを得べく、又人生に隱れたる隱微の一物も無からむ。然も悲しい哉、吾等人類の是に對する知見は、尙不定不完のものたるを免れず。かのプントの香木、乃至はオフィアの金坑の中に存して、唯遙か南方住民にのみ知られたる光――おゝ我等が眼界以上、猶幾多無數の星光あるにはあらざるか」

折しも聽衆の間より低き同意の聲は洩れたり。チグレース席上に立ち除ろに口を開きて、

然なり、其の美しき榮ある天の御星こそは、永遠不朽の大思索なれ。星の光や實に無限無量なるも、人の思想は微々たるもの、我等が齡と共に數へ盡すこと易々たるべし。さはれマギーの御知能こそは、自ら無知なりと卑下し給ふが故に、是れ地上知見の最大なるもの、是をこそ威力の秘密とは云ふべけれ。我等は常に何物か或る新曙光に向て憬れ、求むる同胞あるを知る。然も各自は暗黑の光明と同一なるもの、人類同志の爭鬪が決して、永劫盡くべきものに非ざることを知悉せり。」

アルテーバン更に膝打進めて、

「其は我が心を滿足せしむるに足らず。何となれば、若しや希求の一念にして無限無窮のものなりとし、人間各自の願望にして若しや實現する時なかりせば、其を求め願ふ意は自ら消滅せざるを得ず。吾等は恰も彼の一切眞理を否定し、世俗に存する虛僞を發見暴露して人生を送る者、是唯一の賢者なりと思へる希臘の先達等と異なる所なきに至らむ。さはれ妙なる新曙光は慥かに時至れば必ず示現すべきものたることを疑はず。我等が敎書は慥かに這般の消息を示して餘りあるに非ずや」

父なるアブラガスは聲に應じて曰く、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「然なり、眞に心あるゾロアスターの信徒ならば何方も皆アベスタの豫言なるものをば知り給ふなるべし。言に曰はずや。榮えあるソシアの御代に於て、東方一群の豫言者生れ、其が四邊よりは赫炳たる光影を現し、生涯をして淸らに永遠無窮たらしむるを得べし、其が死骸はやがて再び甦るならむ」と、あゝ是、吾等が日頃胸裡に深く刻み付るものに非ずや。」

チグレーン再び口を開き、

「そは云はれなきこと、不斷の謎とも謂ひつべし。あはれ異端奇怪の人たるを保せざる異邦人に向て、憧憬希待の誠を捧けむよりも、先づ眼下の事物を注視し、國内に於けるマギー敎徒の爲に、一般信念の高上を圖るこそ却て策の得たる者とは云ふべけれ。」

人々は心中此の語を承認するが如く、贊同一致の色は明かに各自の顔容に於て表はされたり。彼等が容貌は一種不定の表情を示しぬ。蓋し是おのが云はんとする思想を適確に闡かされたる時には何人も等しく認むる所のもの也。

當時アルデーバンは、顔面熱して頰邊一抹の紅ゐを帶びつ、父なるアブガルスを顧みて、

「あゝ父よ、兒は今に至るまで其の豫言の御詞を我胸深く秘め置きたり。あはれ宗敎と呼はるゝものにして、もしや一點赫炳たる希望の光りなくば、かの神前活ける燈火なきも同樣、如何に陰闇寂寞の光景なるべきか。さるからに我が胸裡に輝く微妙の紅燈は、一倍と純なる火焰を高めつ、眞理の谿間を流れつゝ、我等が前に廣がる無數の文字を照破して、赫耀たる光彩の中、生なる御姿の出現をいとも明確によましむるに至れり。

斯くてアルテーバンは懷中二個の美しき羊皮の小卷を取り出しつ、いと勿體なげに膝の上に打披ぎながら、

我等の祖先が、此のバビロンの地土に着する久しき以前、カルディアの地に一群の賢人ありて、所謂マギー僧の開祖なるものに天土の秘密を授けぬ。此等

バーラムの中にてもベオルの子こそ其が最も優秀なるものなりし也。豫言なるものに曰く、

「ヤコブよりして一星生れ、其の王權は必すイスラエルの地より起らむ」

チグレーンは見る〳〵嘲笑の色を示しつ、

『ユダはバビロンの流れ近くに捕虜となり、コヤブの子等は我等諸王の獄舍に繫がれ、イスラエルの種族は恰かも彷徨へる小羊の如く、山より遙に追放せられぬ。ローマの束縛に苦しめるユダヤ民族の中、何の戯か大星王權の生起することのあるべきや』

アルテーバン聲に應じて、

『さな云ひそ、嘗ては我等の君たるサイラス大王の、深き恩寵と尊崇とを集めて、賢きベルッハッザーなる諸王の顧問として、將亦極度の夢想家として其名を後に傳えたるヘブリューダニエルの如きものありき。そが確固たる豫言。天地悠久なる思索の賢者を彼は當時の人々に表示したり。是なるは正にそれにこそ……

(此の時アルテーバンは第二の卷物取りあけて朗讀す)

『故に爾等、命を受けてより眞にエルサレムを王の御子たる――油を注がれたる者――ヤソ、クリストの御手に恢復する迄は、慥に八十一の日子を要すべし』

アブガルス猶も不審の色に滿ちて、

『さりながら、其は不思議神秘のことなり。誰か能く之を説明するものぞ、誰か能く此の不斷の謎を解くものぞ！』

アルテーバン答へて曰く、

『そは斯く云ふ某し、及び同じマギー僧徒たる我が三人の友――カスパー、メルヒヨル、バルトハザーが身邊にこそ、しるしも現はされたり。我等は委細にカルデイヤの古書を尋ねて年代を推算し、恰かも其の豫言の年の今年なるを確め、日頃注視して大空銀星の變化を觀測せり。今年の春かとも覺ゆ、ヘブリューの住家を型どる魚形をなして互に相接する二個の大遊星を見たり。其後幾程もなく一の新星現は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れしが、一夜にしてやがて消え失せぬ。さるからに今や二個の大遊星は再び相合致して一體とならんとす。今宵こそはげに其が會合の日たるなり。かくて三人の我友はバビロンのボルシッパなるセブン、スフィアの古き殿堂に於て、天の御空を仰ぎつゝ、鎭星再び光芒を現すことあらんか、友は我が爲に十日間を待ち合し、共にイスラエルの王として生れましたる主なる君を拜せんが爲、エルサレムに向て旅出すべし。余は此の記しの正しく來るべきを信じ、既に旅程の準備を終わたり。是なる――綠玉、紅玉、眞珠――の三個は我が財貨の一切を賣却して購ひ得たる唯一の寶玉なれ、之を主なる王の御前に捧げまつらんと思ふなり。願くは愛する友人、此の意味深き尊きゆかしの旅路に加はりて、主なる君と喜びを共にし給はずや」

かく語りながら彼は胴卷きの最奥の中より三個の大寶玉――一は夜光の御空にも比すべき綠玉、一は曙光の東雲を飾るかともみるべき紅玉、一は白雪積る山岳の、夕陽に映るかと疑はるゝ純白の玉――取り出しつ、先きに拔きたる卷上に橫たえぬ。

されど客なる友人等は等しく奇異の眼を見張りつ、各自の顏容を包む疑惧と不信の帳幕は　沼地より立上る薄霧の小山を鎖さんとするにも似たり。彼等は恰かも荒唐無稽の物語、さては不可解なる事實の盡策を聞きたらんやうに、等しく驚異と憐愍との色を浮べつ、座は暫し深々として靜寂の氣室内を壓するの感ありき。

ヂグレーンは遂に一座の寂寞を破つて、

「アルテーバンよ、其は御身があまりに星光を見守り、空想を逞ふするよりして起り來るものにて、眞に果なき一場の迷夢にはあらざるか。かゝる當もないことを試るよりも、キャラの聖地に新しき火敎の殿堂を立てんが爲に、應分の基金を蒐めた方が、いくら神樣の御心に叶つて居るのかも知れぬ。あの衰殘凋落に瀕せるイスラエル民族の中に、如何にして王樣や救主などの出る氣遣があらうぞ、這般茫漠し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た考で主を求めありくのは之一種の影を追及して居るやうなもので、いつまでも光明と暗黒の界しなき手闘の中に、一生を終らねばなるまい。あゝ友よ、かの水中月影を捕へんとする猿猴の族を笑止とは思はざるか……」

チグレーンは座を立つてしまふ。やがて第二のもの除ろに立上り、

「アルテーバンよ、私にはそんな六ヶ敷ことは迚も理解らぬ。それに國庫管理官といふ目下の職掌柄に對しても此の身を自由にするわけにはまゐらぬ。て君にして若し是非に彼の三人の聖者達と歩調を一にせねばならぬと云ふのなら致し方もない、左様なら」

やがて第三に立上りしは眉目瀟洒の一丈夫、

「拙者は新婚後間もない男で、宅には定めし新妻が待つて居ることであらう。どうも今の境遇上彼女を殘して參るといふわけには參らぬし、それかと云つて、同伴するのは尙以て困難だから、今度の御伴は眞平に願ひたい。だが旅行問題は別事として、どうか御身が此の後とも幸福であるやう……左様なら」

すると第四の男が身を進めて、

「僕は此の頃少し氣分が惡いので、今度のやうな實に愉快な冒險的の旅行にはどうも、え耐えぬ。が幸ひ僕の家に此の頃使つて居る屈強の下男が居るので、愈君が此の事を實行するとなつたら、せめてその消息なりとも聞きたいので是非御伴させることにしよう。では是でお暇……左様なら」

一人〳〵皆好い加減な挨拶と道辭とを設けて、さまりわるげに座を立つて了ふ。後には流石肉身の情愛に引かれて、衷心愛兒が行末を氣遣つて居た老父アブガルス、そこ〳〵と辭し去る客人に目もくれず、あたり物憂げに逍遙ひしが此の時アルテーバンが傍に座を占めて、聲も嚴かに、

「愛する兒よ、御空の星光は眞理の光りを現はし、御身等を導きて、主なる君、大光明の御前に現はしむることもあらん。さりながら、又考へ直してみる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、先きにチグレーンも云ひけん如く、單なる光影に過ぎずして徒らに果しなき無窮の行脚に終るかもしれぬ。されど一念斯樣と思立つた以上、屈々の思ひに平然無味の生涯を送るよりか、我が信念の前途に向て思ふ存分に働いてみる方が餘程優つて居る。總じて此の世に破天荒な不可思議大膽の事業を試みようとするものは飽くまでも獨力でやり通す覺悟が無ければならぬ、といつても悲しいかな此の老翁、白髮枯殘の形骸を抱いて、御身と一つ旅路に勇ましき行脚の途出も覺束なし。されど我が一念燃ゆるが如き靈は、日夜御身の傍に在りて、風ふく日、雨ふる夜半、誓て汝が友となり力となり、美事年來の宿望を果して、身に餘る歡喜を共にせむ、おゝ心身共に健かなれ、………さらば………さらば………歎息なれや我が愛兒………………」

思は後に綿々として、さすが子を思ふ闇に迷ひつゝ老父アブガルスは、御空を照らす銀星もろとも、靜かに更けゆく室を出てぬ。

後影見送りしアルテーバンは、廣き室内に唯一人、蟲の音細き夜半の窓、獨り拱手默然として空打眺めしか、やがて思ひ出したらんやうに、卷上に列べたる三個の寶玉を手にして深く胴卷の奧に納めつ、祭壇のほとり薄く夢みる如き燈火に胸の霧を拂い、廣間を拔けカーテンを揭け、彼は今し屋根なる臺盤に達する壯大なる雲斑柱の間を過れり、

地上を渡るアウロラの御使は、旭光いまだ寢殿を出でざるに早くも東方かすかに紅緑の翅を擴げ、曙光の先驅とも見る膚寒き一陣の朝風は、彼方雲を蔽ける オロンツ山の谿間より遙かに天上美妙の樂を送れば、木の葉さゞめき小鳥歌ひ、世は希望と生鮮との氣に滿ちて、かしこ涼亭のほとりよりは、熟したる葡萄の香り紛々として鼻を折たん斗り。

見渡せば東方一面に敷り布ける牧場の平野は薄き霞の幕帳を下して、さながら一帯の湖水かとも疑はる、されど遙かザクロースの山頂には一點の雲影なく、鋸齒の形を見せたる西雲の御空、今やジユピトル、サタ

ーンの兩星が輝く焔の車の如く、正に相接して一體化せんとして動きそめぬ。

アルテーバンは暫し默然として此の光景を凝視めしが、折しも紅綠の光りを通して白光の一點へと輝きつゝ、見るも尊き白青の一閃は、今しも紫爛の色、深紅の球と相接して黑暗々たる地上の一角より燃え上れり。極微無限の距離、然も其間些の亂れなかりき。あはれ甚大無窮の天空に於て、此の敬虔なる一マギー教徒が懷深く秘めたる淸きみ玉の互に相混りあひつゝ、光り輝く心情となりたらんもかくやと思はれて、いと神々しくぞみえける。

彼は思はず頭を垂れ、兩手を額にあて、大地にひれ伏しぬ。

「あゝ是れ必定主なる我等の君が此の世に降誕ましますの前兆と覺えたり。我心既に決せり。いでや我等は誓て主を拜せざるべからず」

かくてアルテーバンは一念不動の臍を堅めて、喜々としておのが屋へと急ぎ入りぬ　《つゞく》

訂正。 前號譯文中第一節初めの二行は譯者の不注意に由て誤譯したれば左に訂正す。

「時はアウグスタス、ケーザルが各地に割據せる諸王酋長を統帥し、ヘロデ王エルサレムに君臨せし頃かとよ」

尙、今回の如き早急の際推敲の隙を缺ぎたれば、誤り傳へたる節の多からんことを恐る。希くば偏に讀者諸彦の御教示を仰ぐ」。

○我は谷間の白百合花なり

あはれ、我は大神の惠みの充ち足らへる小さき僕の花の白百合なり。白きは、たゞわが裝ひのうへのみかは、身も白く、夢も亦白しで白きは一切の色の源にして衆德の流れいづる愛の徽章とぞ聞く。われ浮世の譽れを求めれども、心醒めたる眞の友の慰おのづから寂びしからず、かくて夢ならぬ我が世を夢と過ぎぬれば、見よいやはてのひと日、われは愛に輝く白妙の羽衣さして、光榮の天門高く打仰ぎつゝ、慕ひつゝ望みつゝ、彼方の故里へと歸りゆくなり。

（梁川氏回光錄の中より）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子青年會記事

横濱共立女學校青年會手簡

拜啓時下嚴寒の候朝夕は殊更のことゝたへに候折から御一同樣如何御消光に候哉。嘸かし天父の御恩寵のもとに、幸にあらせ給ふなるらめと蔭ながら御喜びまゐらせ候、さて舊冬のころ當校青年會の規則書及その當時の情況を御送附申上置き候へ共御受とり下され候や。その後萬國青年會の方と御聯絡なし下され候にや。樣子も勝手も更に不明に候へば何を如何にしてよきやらも相存ぜずたゞ〳〵手落のみ致し勝のわれらを御ゆるし下され何卒よきやうに御指導下されたく偏に御願ひ申上參らせ候。

先は御ねがひまて　あら〳〵かしく

一月二十四日　共立女學校青年會

横濱共立女學校青年會現況

役員始め各部の委員皆大に活動しつゝあり傳道部は四個所の日曜學校を持ち、矯風部は學校内の風儀を矯正し或ひは病人を見舞ひて花卉などを贈り、祈禱會部は全力を濺ぎて各のために祈禱し、慈善部は編物會を設けて、その純益金を慈善のために利用し、貧困のうちにある兒女に供給しつゝあり。文學部もまた益々振興の樣見ゆ、

午前八時より同三十分迄の有志祈禱會は廢されて特別に祈禱室なるもの設けられたり、有志の者は行きて隨時密に祈禱する事を得。

月曜日午前八時三十分より同四十五分迄の十五分間を充て女子青年會のための祈禱時間となす、各職員及同會事務執行委員中の有志者は同時間内に青年會顧問ミス、ウヰールスの自室に至りて祈禱するを得、努力及活動はこれに止まらず、益々隆盛に趣く樣あり、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

鳥羽氏よりの通信

大變寒空にむかひましたがあなた樣には御さはりなく入らせられますか東京は當地より一しほおさむき事と存じます。何卒申上ぐる迄も有りませぬが、御風など引きあそはさぬ樣御自愛專一に願い上ます。

扨て先日は御親切にながく〱と委しく會則の事に就き其利害を御きかせ下されありがたく御禮申上ます過日の一月十一日の委員會に於て仰せの通りにいたすべき決儀いたしましていよ〱此所に萬國女子青年會と云ふことを名古屋市に設立いたしましたから此後とてもよろしく御敎導下され度委員一同にかはりて御願ひ申上ます。

之れより會報を少しく書きます、

一月三日午後二時より新年會を開き其時の餘興として會員の演藝をなしまして午後を過しました、演藝の後に會長より聖書の御話を伺ひ五時半頃閉會となりました。集りし人數は三十名、新に入會せし者二名て御座いました、演藝の順序御參考までに御目にかけます、

先日の委員會にて青年會の內に新に訪問部と祈會と設けました。而して之れより二回つゝいて缺席いたしまする、會員の御宅を訪問委員の方が尋ねにまゐります、其爲め委員は八名御座います。この八名の者が夫々てわけをいたして受持つて居るので御座います、

祈會は最も會を御榮の爲にさかんになすため缺く可らざる事と信じ正會員の者が三ヶ月に一回集りまして開く事にいたしました、其爲の委員三名之らの方が適當と思ふ樣に司會なさることになし居ります、

前に御報告申上し事と變りました事等はこれだけて有ます。

まづは亂筆にて御報まで　かしこ

一月十七日　　鳥羽つき

マクドナルド樣　御許に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大阪ウヰルシナ女學校青年會報告

當青年會一月中に開きし集會の模樣を左に御通知申上候。

一月十五日

當日は四十一年第一の集會なれば會長深井だい姉司會下に祈禱會を開きたり。開會贊美百六十八番をうたひ給ふ詩篇第五十三篇の朗讀ありたり。司會者の開會の祈禱あり午後自由時間に移る。自由時間中山本姉は吾らは世をわたるにキリストなる岩に導かりし安く渡らんてふ主意をもつてし感話せられたり。桶田政技姉は信者となられし動機及び神は熱心に祈りもとむる者には必らずなへ給ふる事、然して姉の實に悲情なる半生の歷史を物語られたり。

出席者一同大に感動して姉に滿腔の同情をよせたり。時來りしをもつて阿竹光子姉の祈禱をもて閉會す當日出席者二百三十餘名なりき

廿三日

愛てふ題をもつて河野みち姉司會せられて祈禱會を開きぬ

開會の贊美第五十三番を一同うたひ次に司會者ヨハネ傳十三章三十四――三十五同十五も十一――十三の朗讀及び開會の所をせられて後會日の題につき愛はすべての德の帶なりてふ聖句につきて感話せられたり

其外禱をせられし姉妹十八名感話せられ姉妹九名聖句を朗讀せられし姉妹二十餘名ありき

一同主の祈をもつて閉會す

三十日

義務てふ題をもつて山木よね姉司會せられて祈禱會を開きたり

初めに贊美二百二十七番次に聖書馬太七章二十一――二十九の朗讀ありて自由時間にうつれり數名の姉妹の今日の題につきての感話及び熱心なる祈の後主の祈をもつて閉會せり

尚二十九日役員の事務會を開きたり來月開くべき總會につきて及び毎朝の聖書朗讀會につきし相議せり

大阪ウヰルミナ女學校青年會書記

法駕導引（漢詩三章）

天津女學校 佛蓮女士

迢迢夜迢迢夜。樓上四更時。絳蠟燒殘春未曉。紫簫吹徹鳳來遲。天潤彩雲垂。

鬢相憶鬢相憶。細語隔花輕。記得碧城欄十二。滿襟風露夜同憑。海底數春星。

瀛洲曉瀛洲曉。晴靄結氤氳。玉女匲窗妝未竟。日華紅射臉霞新。一笑海天春。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

YOUNG WOMEN

OF

JAPAN

Vol. V *Feburary, 1908.* *No. 2,*

Miss M.A. Whitman, Chairman
Dr. Kei Okami, Vive-Chairman
Miss A.G. Lewis, Recording Secretary
Mrs. G.M. Fisher, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member of the World's Committee
Miss Sumi Miyagawa, Corresponding Member of the World's Student Christian Federation

Resident Members	Non-Resident Memebers
Miss Ume Tsuda	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. Hatsu Watanabe	Miss Michi Matsuda Kyoso
Miss A. B. West	Mrs. G. S. Phelps, Kyoto
Dr. Tomo Inouye	Miss E. M. Soper, Nagoya
Miss Hama Hirano	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Mrs. Hana Ibuka.	Miss L. Zurfluh, Sendai
Mrs. Koharu Nakajima	
Miss Uta Suzuki	

Miss A. Caroline Macdonald,
General Secretary
Miss Stella C. Fisher,
Assistant Secretary

Headquarters:— 15 Doto Sanbancho, Kojimachi,
Tokyo

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治四十一年二月十五日發行

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN
OF
JAPAN

Continue stedfastly in prayer watching
Therin with thabksgiving. Col. 4 : 2.

Vol. V. *Febrrary, 1908.* *No. 2.*

CONTENTS

EDITORIALS ;—

Strength for Work . . . . A. C. Macdonald
Religion and Character-Building . . . . Saichiro Nomura
My Recollections of Pain and Pleasure . . . . Okyo-sei

BIBLE STUDY :—

The Prayers of Jesus . . . . En Kashiwai

MISCELLANEOUS :—

The Water Princess . . . . Yasu Tsujimura
On the Way to Church (A Poem) . . . . Akiro
How to Wash Woollen Fabrics . . . . Sumi Miyagawa
The Schoolmaster . . . . Shogi Yasuda
The Other Wise Man . . . . Henry VanDyke
(Translated by Okyo-sei)

ASSOCIATION NOTES :—

Reports

東京神田美土代町三秀舍印行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA